

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
2022年3月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答要旨

日時:2022年2月14日(月) 10:00~10:45

Q.百貨店事業において、12月から1月にかけての売上の趨勢と、それを通期予想にどのように織り込んだのか教えていただきたい。

A.(渡邊役員)

3Qにおいては、11月から12月にかけてコロナの感染状況が落ち着いていたことで、人出が回復したことや天候等の要因もあり、ファッション、ギフトが特に好調だった。

国内売上高は、9月から12月にかけてコロナ前を上回って推移する期間があったものの、1月はオミクロン株による感染者の急拡大の影響でコロナ前の水準を下回った。足元でも店頭の客数は減少傾向で、今期末まではこのような状況が継続すると想定し予想に織り込んでいる。

Q. 2Q 決算発表時に関西フードマーケットの統合における大枠のスケジュールについて話があったが、経営統合後の現段階でその計画と何か変化はあるのか。

A.(渡邊役員)

当初から、統合効果を見込んだ計画を発表していたわけではないため、その点で当初計画と変更はない。関西スーパーのビジネスモデルはある意味完成されたオペレーションになっており、イズミヤや阪急オアシスのやり方と統合していくことについては計画的に進める必要があると思っている。

Q. 12月に地下1階を除きフルオープンした阪神百貨店の手応えはどうか。

A.(渡邊役員)

10月に建て替え先行オープンした阪神梅田本店では、お客様の反応が非常によく、これまでの阪神百貨店の良さを生かしつつ、新しいことに挑戦していることで手応えを感じている。しかし、現在も地下1階の食品売場の改装が続いており、売上についてはその影響を大きく受けている状態である。

Q.寧波阪急は開業当初好調なスタートを切ったが、現在もその状況は継続しているのか。

A.(渡邊役員)

入店客数は好調な状態を継続しており、売上高は当初の目標から2~3割増で推移している。その中でも特にラグジュアリーと食品が好調である。

Q.これまでも人流抑制の規制が厳しくなると食料品の需要が強まる傾向があったと思うが、まん延防止等重点措置が適用されて以降食品スーパーの販売状況は持ち直しているのか。

A.(渡邊役員)

お客様がコロナ禍での生活に慣れたのもあってか以前と比べまとめ買いは減少しており、まん延防止等重点措置が適用されても、以前ほど売上増加の振れ幅は小さくなっている。ただ、外出自粛によって自宅で食事を取る機会は増えるので、マイナスに働くようなことはないと考えている。

Q.昨年の夏からナショナルブランドを中心に納入価格があがっているが、店頭売価への転嫁については販促面も含めどのように考えているのか。

A.(渡邊役員)

報道されている以上に多くの商品で値上げがあり、部分的にでも価格転嫁を考えざるを得ない状況にある。当社だけでなく、他社もどこかのタイミングで値上げを実施すると思うので、全体的な値上げがあることを前提に、いつ踏み切るのか、地域性や需要の状況などを踏まえて、きめ細やかに対応できるように検討を行っている。

以上